

国際シンポジウム「大学における研究データサービスの導入と展開」

Carlson, Jacob

ニューヨーク州立大学バッファロー校図書館：研究・コレクション・アウトリーチ担当アソシエート・ユニバーシティ・ライブラリアン

Rice, Robin

エディンバラ大学図書館・大学コレクション部門：データライブラリアン兼研究データ支援サービス部長

Smith, Simon

エディンバラ大学図書館・大学コレクション部門：研究データ支援オフィサー

竹内, 比呂也

千葉大学：副学長

他

<https://doi.org/10.15017/7238303>

出版情報：2024-10-11. University of Edinburgh

バージョン：

権利関係：

2024年10月11日

国際シンポジウム「大学における研究データサービスの導入と展開」

日本におけるオープンアクセスと 研究データサービスの課題

Challenges in Open Access and Research Data Services in Japan

竹内 比呂也

(千葉大学)

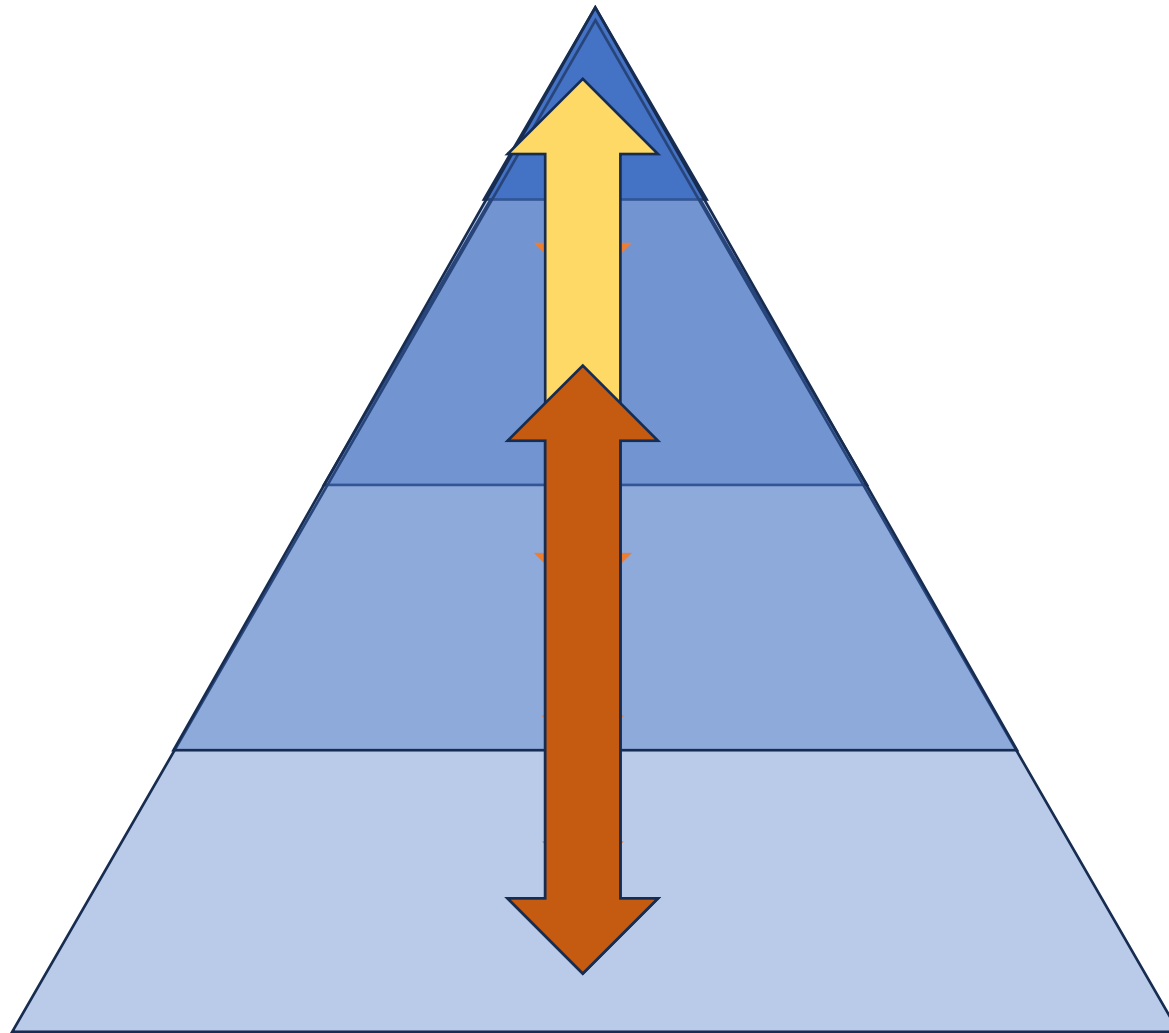
Hiroya Takeuchi, Chiba University

Always Aim Higher



CHIBA UNIVERSITY

政策とそれに関連するアクションを理解する 枠組み



グローバル／国際的な政策・
アクション

国レベルの政策・アクション

インターユニバーシティレ
ベルの政策・アクション

個々の大学レベルの政策・
アクション

「統合イノベーション戦略2023」

- 本年5月に日本で開催されたG7広島サミット及びG7仙台科学技術大臣会合を踏まえ、我が国の競争的研究費制度における2025年度新規公募分からの学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた国の方針を策定する。

→「公的資金による学術論文等のオープンアクセスの実現に向けた基本的な考え方」（2023年10月30日、総合科学技術・イノベーション会議 有識者議員）

→「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」（2024年2月16日）

学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針(2024.2.16)

科学技術は、社会課題を成長のエンジンへと転換し、持続的な経済成長を実現する原動力であり、同時に、感染症や自然災害等の脅威について国民の安全・安心を確保するものであり、国家の生命線となっている。学術論文の発表等を通じたオープンアクセスの推進により、研究の進展や社会実装につながり、科学技術の研究成果は国民に広く還元されている。しかしながら、その流通はグローバルな学術出版社等（以下「学術プラットフォーム」という。）の市場支配の下に置かれ、購読料や学術論文のオープンアクセス掲載公開料（APC: Article Processing Charge）の高騰が進んでいる。この高騰は学術雑誌の購読や学術論文の出版という学術研究の根幹に係る大学、研究者等の費用負担を増大させ、研究コミュニティの自律性を損なうなどの悪影響をもたらす可能性がある。また、研究評価における定量的指標への過度な依存を見直し、オープンサイエンス推進のための現状と課題を把握・分析しつつ、新たな価値及びインセンティブ付与のためのシステムの確立と移行を目指す必要がある。

学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針(2024.2.16)

論文及び根拠データの即時オープンアクセスを実現するための理念としてOA方針には以下を盛り込むべきである。

第1に、公的資金によって生み出された研究成果を広く国民に還元するとともに、その共有・公開を通じて自由な利活用を図り、科学技術、イノベーションの創出及び地球規模課題の解決に貢献すること。

第2に、大学及び大学共同利用機関（以下「大学等」という。）における利用可能な雑誌数や論文発表数を減らすことなく、かつ、研究活動に負の影響を与えることなく、我が国全体での購読料及びオープンアクセス掲載公開料（APC: Article Processing Charge）を含む経済的負担を適正化すること。

第3に、我が国の研究力を踏まえた世界に対する研究成果の発信力の向上を図ること。

学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針(2024.2.16)

(1)公的資金による学術論文等の即時オープンアクセスの実施

- 公的資金のうち2025年度から新たに公募を行う即時オープンアクセスの対象となる競争的研究費を受給する者（法人を含む）に対し、該当する競争的研究費による学術論文及び根拠データの学術雑誌への掲載後、即時に機関リポジトリ等の情報基盤への掲載を義務づける。
- 即時オープンアクセスの対象となる競争的研究費制度は、学術論文を主たる成果とするものとし、関係府省が定める。
- 即時オープンアクセスの対象は、査読付き学術論文（電子ジャーナルに掲載された査読済みの研究論文（著者最終稿を含む））及び根拠データ（掲載電子ジャーナルの執筆要領、出版規程等において、透明性や再現性確保の観点から必要とされ、公表が求められる研究データ）とする。

オープンアクセス実現の方策

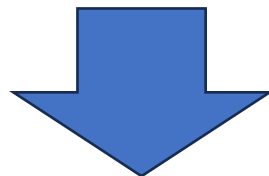
- グリーンOA：著者が公開可能な版を1) プレプリントサーバや2) 機関リポジトリにセルフアーカイビングすること
- ゴールドOA：著者がAPC (Article processing charge) を支払うことで、オープンアクセス雑誌あるいはハイブリッド雑誌で論文をオープン化すること
- ダイヤモンドあるいはプラチナOA：APCの支払いなしで雑誌上でのオープンアクセスが実現すること



コンテンツ基盤／
プラットフォーム
＝機関リポジトリ
など

研究成果の発信力を
強化する

研究成果をオンラインで無料で制約なく利用で
きるようにする



オープンアクセス加速化のための基盤整備

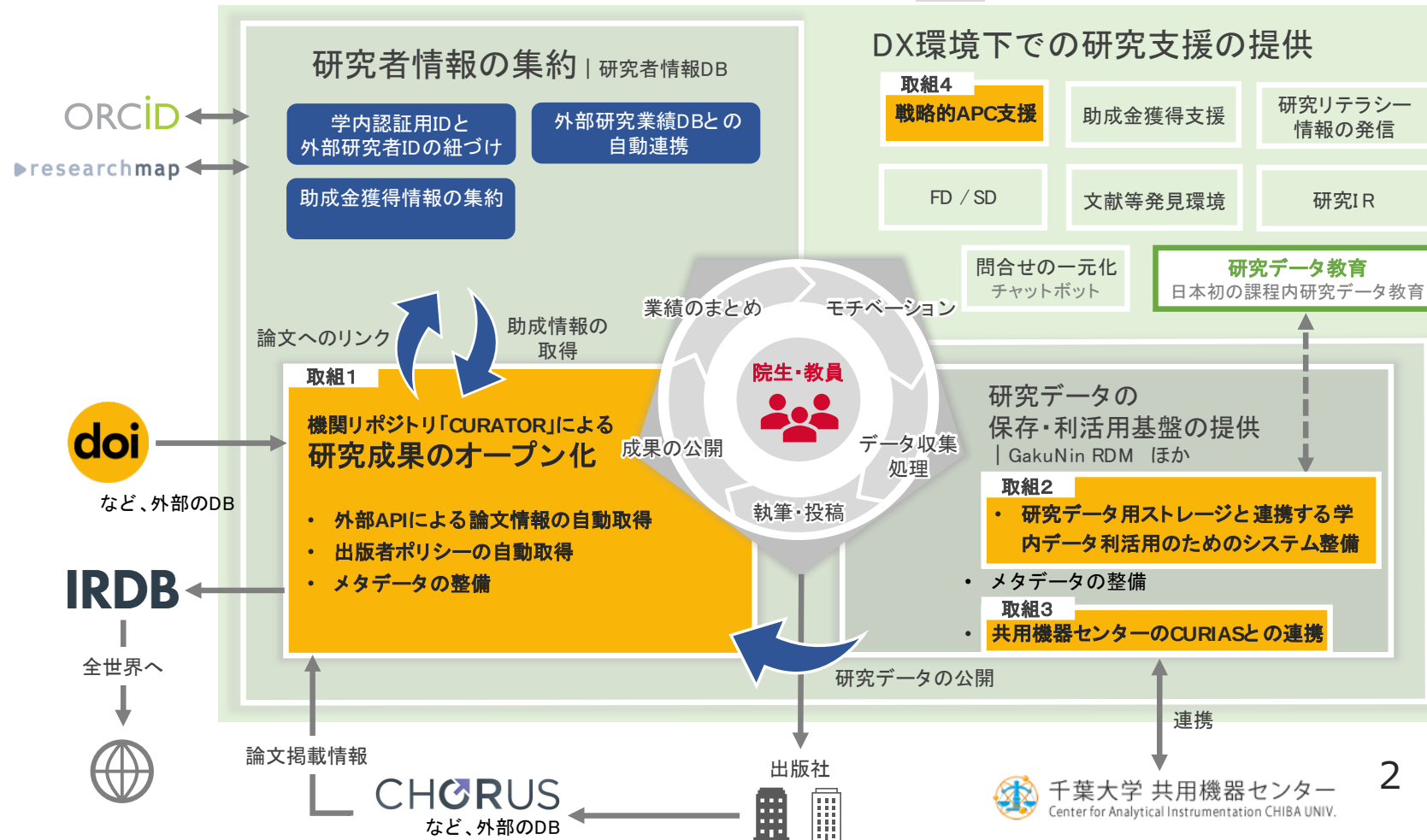
※今回の申請で実現・高度化する部分

メリット
1

研究成果の可視性

メリット
2

研究者の負担



学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針(2024.2.16)

(1)公的資金による学術論文等の即時オープンアクセスの実施

- 公的資金のうち2025年度から新たに公募を行う即時オープンアクセスの対象となる競争的研究費を受給する者（法人を含む）に対し、該当する競争的研究費による学術論文及び根拠データの学術雑誌への掲載後、即時に機関リポジトリ等の情報基盤への掲載を義務づける。
- 即時オープンアクセスの対象となる競争的研究費制度は、学術論文を主たる成果とするものとし、関係府省が定める。
- 即時オープンアクセスの対象は、査読付き学術論文（電子ジャーナルに掲載された査読済みの研究論文（著者最終稿を含む））及び根拠データ（掲載電子ジャーナルの執筆要領、出版規程等において、透明性や再現性確保の観点から必要とされ、公表が求められる研究データ）とする。

一つの規則、多様な分野

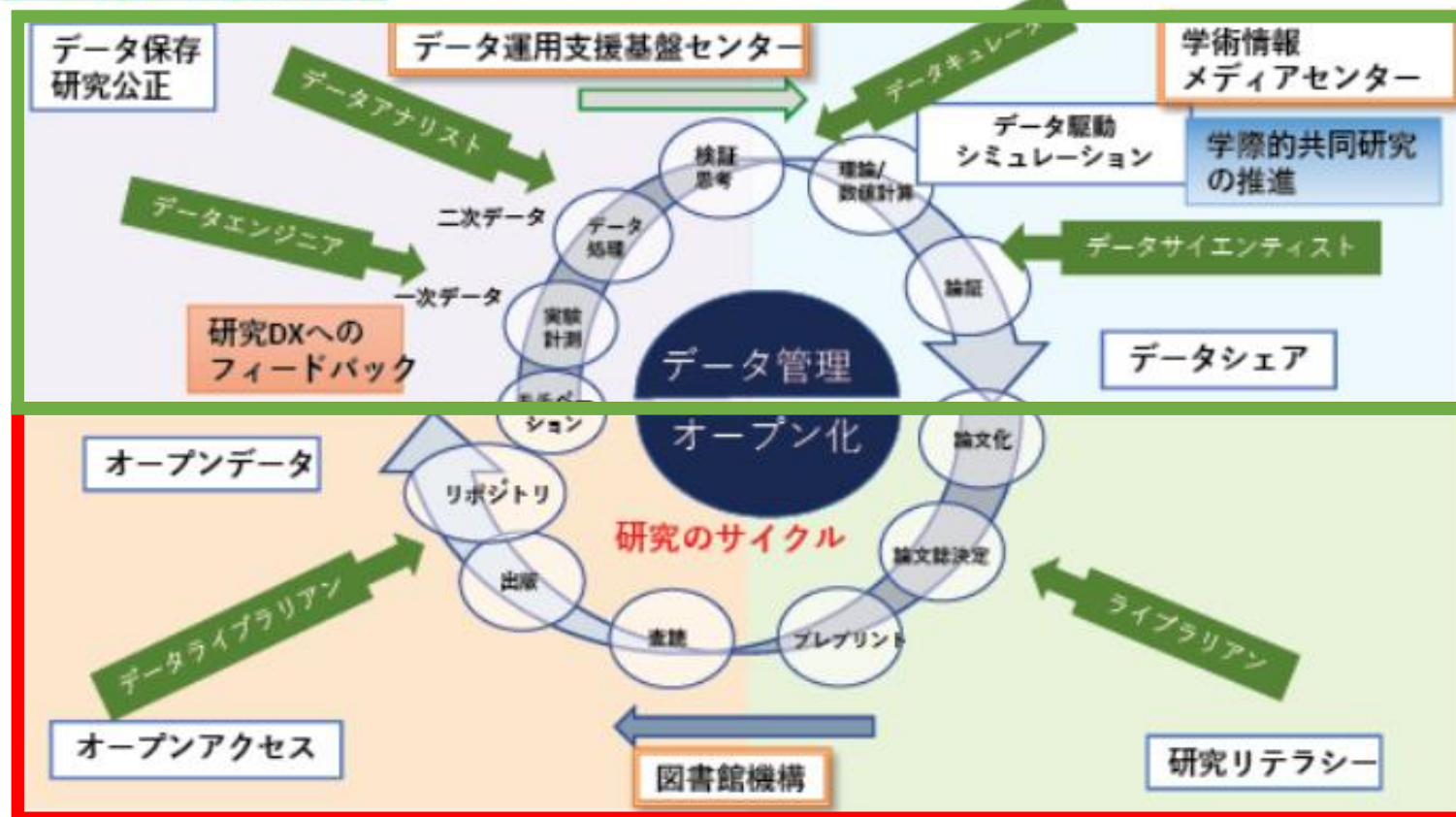
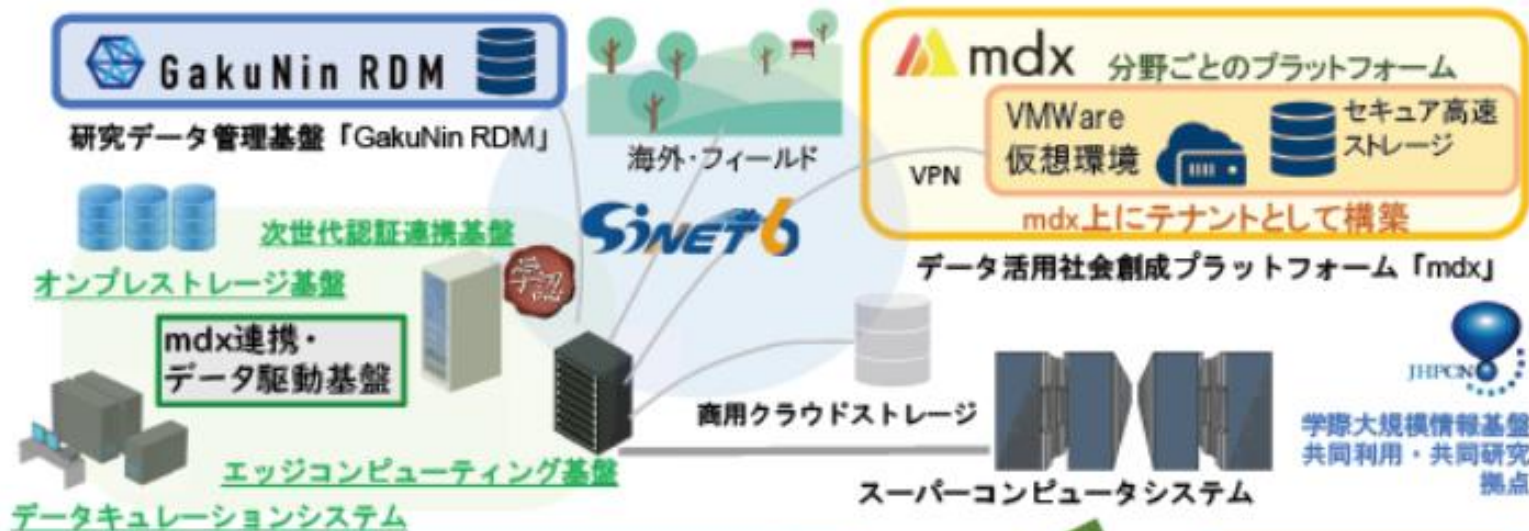
- 「根拠データの即時オープン化」が義務、さらにデータのオープン化がオープンサイエンスの時代には求められると言われても…
- データの扱いについての分野ごとの文化や意識には大きな差異がある（データの扱いについて20年以上の歴史の違い）
- 各大学における研究データサービスの企画・設計にあたってはこのような違いに留意しなければならない

誰が担い手に？

- 図書館
- 情報センター
- 研究推進系部署

★「データ運用支援基盤センター」（京都大学）

- とはいえ、研究プロセスに即した全ての支援を実施するわけではない。
- 学内の関連部署が連携した「データ管理・公開支援体制」の構築＝それぞれの役割を明確にした上で、図書館の役割の特定



出典：
 引原隆士「研究データのオープン
 アクセスを担保する機関リポジト
 リの展開」STI Horizon, 10(2), pp. 12-
 17(2024)(
<https://doi.org/10.15108/stih.00370>)

“Data Curation”といっても…



Data Curation!

同じようにData Curationという言葉を使っ
ていても具体的に行っていることは全く違っ
ているかもしれない

General なCuration
比較的単純なデー
タの形式などの
チェックを行う

VS

研究の中身を理解
していないとでき
ないようなデー
タの整理

Data Curation!



日本の大学にとっての課題

- オープンサイエンスは今日の国際標準であり，大学としての対応は急務
- オープンアクセス
 - 基本的な道具立ては揃っている
 - Green vs Goldからの脱却
- 研究データ管理・公開
 - 国際的には周回おくれか。これ以上引き離れない！

研究データに関する大学における検討課題

- 基本方針となる「データポリシー」の策定
 - これがないことは国際共同研究の障壁
- 研究公正，安全性，効率化が可能な「研究プロセスの記録・管理・保存」環境の確立
 - 電子プラットフォームとストレージ
- 学内の関連部署が連携した「データ管理・公開支援体制」の構築（大学図書館の役割の明確化）
 - ファーストコンタクトポイント（案内役）の設置
 - データへのDOI付与などの公開支援体制の確立
 - 研究室（若手教員，大学院生など）を対象とした研究データ管理スキル（リテラシー）教育